

初氷

松岡隆子

誰も顔あぐ立冬の交差点
かん札幌ばせに朝の日ま直ぐ初氷
初雪をふむ北国の人と踏む
直立の高さポプラの枯にはか
一水の奔りて枯の深きかな

ゆりの木の落葉の嵩の殊のほか
人思ふやエルムの森の落葉踏み
ふだん着のままの会話や冬ぬくし
鳥高く飛んで勤労感謝の日
車座とふ冬あたたかき形かな
あれやこれ銀杏黄葉の散りてより
考への途中を眠り時雨れけり